

組織目標評価報告書（令和5年度）

部局名：

工学部

学域名：

環境生命自然科学学域(工)

部局長名：

難波徳郎

目標・取組		目標・取組の達成状況(成果)及び新たに生じた課題等 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	関連する 中期計画の番号	教育領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>課題：ポストコロナ時代に対応した工学教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> オンライン授業の教育効果を検証し、対面授業とのすみ分けを図る。 ICTを積極的に活用するとともに、共通科目のマスプロ化などによる教員の負担軽減を図る。 <p>課題：今後の高等教育のあるべき姿の実現に向けた教育改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> Target2025にも対応した、完成年度後のカリキュラム改善に向けて、入学前教育も含めて自己点検・評価を行う。 高校の新学習指導要領の下で学習した入学者への対応として、主体的・対話的な学び、分野横断的な学びを実現可能な教授法の導入を推進する。 <p>課題：18歳人口減少への対応として、新たな志願者層の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報工学先進コースの設置が認可された場合、入学定員が610人から640人に増えるが、入試倍率を維持するためには新たな志願者層を確保する必要がある。このために、女子枠、工業高校枠の導入を検討するとともに、広報活動や入学前教育などの充実を図る。 <p>課題：国際通用性を持った教育プログラムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 高度な英語力とグローバル化に対応した優れたコミュニケーション能力の涵養を可能とする教育プログラムの構築を目指し、特別コースの設置を検討する。 	(2-1) (4-1) (12-1) (2-1) (3-1) (2-2) (7-1) (4-1)	<p>課題：ポストコロナ時代に対応した工学教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 大人数が履修する専門基礎科目について、複数の教室に分かれて講義を行っている場合、オンラインで繋ぐことで1人の教員で実施できないか検討した。担当教員の負担がむしろ増すとの懸念が指摘され、R6年度の試行には至らなかった。引き続き、系・コース科目での実施検討を進める。 <p>課題：今後の高等教育のあるべき姿の実現に向けた教育改革の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> R7年度の全学カリキュラム改定に対応するために、学部カリキュラムの改定などを検討した。 2月に実施した入学前教育については、高校側の評価も高いため、内容を更にブラッシュアップし、次年度以降も継続実施することとした。 <p>課題：18歳人口減少への対応として、新たな志願者層の確保</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報工学先進コースの設置が認可されたため、高校教員や高校生に向けた広報活動を行った。・工学部で継続実施している進路相談会を11回、研究室見学会を4回開催するなど、志願者の確保に努めた。前期日程の志願倍率は、前年と同じ2倍を維持することができ、情報工学先進コースについては2.1倍となった。・女子枠入試は継続検討中。・女子高校生向けの学部案内を作成中。 <p>課題：国際通用性を持った教育プログラムの構築</p> <ul style="list-style-type: none"> 女子枠入試で入学した学生の受け皿として、特別コースの設置について検討を開始した。
②研究領域	関連する 中期計画の番号	研究領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
③社会貢献(診療を含む)領域	関連する 中期計画の番号	社会貢献(診療を含む)領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>課題：小学校・中学校・高校での工学教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合技術部の職員や学生に協力してもらい、小学生、中学生を対象とした出前実験を行い、理科好きの生徒を増やし、将来的な工学系の志願者増につなげる。 高校での出張講義の他に、探究学習・課題研究における助言・指導の機会を増やす。 高校生を対象としたプログラミングの講習会や出前授業を実施し、今後ますます重要性を増す情報教育の支援を行う。 <p>課題：高校生の進路選択支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生を対象とした進路相談会を開催し、生徒の疑問や悩みの解決に貢献する。 <p>課題：リカレント教育、生涯教育による社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人を対象とした情報・セキュリティ講座や一般市民を対象とした公開講座を開催する。 <p>課題：地域課題の解決支援</p> <ul style="list-style-type: none"> カーボンニュートラルなどの地域課題の実現に向けた、企業や自治体のアクションプランの策定や具体的な活動などに対して、教員を派遣するなどして積極的な支援を行う。 <p>課題：国際交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が企画段階で参画する国際交流セミナーを開催し、グローバルな人材育成に貢献する。 	(6-1) (1-1) (1-1) (7-1) (5-1)	<p>課題：小学校・中学校・高校での工学教育支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 総合技術部の職員による、小学生を対象とした出前実験を行った。中学生を対象とするイベントの開催には至っていない。・高校の教員と連携して、探究学習・課題研究における助言・指導のためのWeb掲示板を構築に協力した。まずは、高校教員と大学教員で使いながら、運用の拡大を目指す。・工学部生による高校生を対象としたプログラミングの講習会や出前授業を実施した。 <p>課題：高校生の進路選択支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 高校生対象のオンライン進路相談会を11回、対面の研究室見学会を4回開催した。 <p>課題：リカレント教育、生涯教育による社会貢献</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会人を対象とした情報・セキュリティ講座や一般市民対象の公開講座を開催した。 <p>課題：地域課題の解決支援</p> <ul style="list-style-type: none"> 自治体のCN活動に協力していた教員が他大学に転出したため、期待していた教員派遣による支援が十分進まなかった。一方で、グリーンイノベーションセンターの活動に工学部の教員が参加し、木質建築の振興活動に協力した。 <p>課題：国際交流の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 学生が企画段階で参画する国際交流セミナー(SDGs化学セミナー)を12月に開催し、中高生も交えた国際交流を行った。・HUGプログラムで4人の学生が短期留学した。・DIGプログラムを2回開催し(台湾及び韓国)、36人の学生が短期海外研修に参加した。
④管理運営領域	関連する 中期計画の番号	管理運営領域における目標・取組の達成状況及び新たに生じた課題等
<p>課題：学部改組に伴う旧学部の早期廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> 進級が遅れている旧学部学生への学修支援により、旧学部の早期廃止を目指す。 旧カリ、旧学部の諸会議の廃止による教員の負担を軽減させる。 <p>課題：学部改組に伴う組織的な管理運営体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 研究科改組とも連携した教員(人事)、事務組織の整備を進める。 予算管理など、両学部で異なるルールの擦り合わせを行う。 高騰する光熱水料へ対応しながら、教員に配分する運営費を維持するための方策を検討する。 <p>課題：新設予定の情報工学先進コースの教育に必要な教員の確保と設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 必要な教員数を確保するとともに、教員の居室と約100人となる情報工学分野の学生教育に必要な教室や機器などを整備する。 <p>課題：教授会等におけるDXの更なる推進による効率的な部局運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 人事や教授会における審議事項の議決など、会議時間の短縮や部局運営になるべく多くの構成員の意見を反映させるため、対面会議を欠席した場合でも議決権の行使を可能とする電子投票制度の導入を図る。 <p>課題：女性教員割合の引き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 公募による教員採用人事において、女性の応募者を増やす方策を検討する。 	(15-1) (12-1) (15-1)	<p>課題：学部改組に伴う旧学部の早期廃止</p> <ul style="list-style-type: none"> 3/7現在、4年次に進級できていない学生が、工学部で80人、環境理工学部で18人いる。4年次への進級支援を継続するとともに、修得単位が少ない学生に対しては進路相談を行うよう指示した。 <p>課題：学部改組に伴う組織的な管理運営体制の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 工学部と環境理工学部の事務組織の統一に向けた整備を行った。・新たな取組：これまで副学部長は系長を兼ねていたが、それぞれ学部と系の業務に集中してもらうために、R6年度から副学部長と系長を分けることにした。・新たな取組：不足するTA経費について、工学教育振興会への寄付金を有効に活用できるようにした。 <p>課題：新設予定の情報工学先進コースの教育に必要な教員の確保と設備の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> 情報工学先進コースの設置が認められ、教員採用人事を行い、R6年4月から4人の採用が決まった。・4人の教員の居室と学生用のスペースを確保した。・新たな課題：教員研究費を部局で措置する必要があることが判明した。次年度の対応は検討中。 <p>課題：教授会等におけるDXの更なる推進による効率的な部局運営</p> <ul style="list-style-type: none"> 人事の議決を事前投票も可能な電子投票とすることで、定足数を確保しやすくなった。 <p>課題：女性教員割合の引き上げ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本学の男女共同参画室との情報交換を行い、女性応募者を増やす方策を検討した。・学部HPに新任の女性教員の紹介記事を掲載した。

注1) 本様式全体が1ページに収まるよう作成してください。

注2) 自己評価による達成度(5~1)は非公表項目とし、組織目標評価結果を公表する際に消去します。